

東京辰巳アイスアリーナ（仮称）

## 施設運営計画

東京都生活文化スポーツ局

令和4年11月

# 本施設運営計画について

- 東京辰巳国際水泳場は、水泳の普及・振興を図る中心拠点として、これまで、国際大会を含む多くの大規模大会を開催し、また、東京2020大会では水球の競技会場となり、熱戦が繰り広げられました。
- 東京辰巳国際水泳場は、近接地に東京アクアティクスセンターが整備されることから、東京2020大会後の施設の機能について、東京都スポーツ振興審議会における有識者の意見等も参考にしながら検討し、都内に施設数が少なく、利用ニーズが高い通年のアイスリンク施設として整備することとしました。
- また、令和4年1月に公表した「TOKYOスポーツレガシービジョン」では、都立スポーツ施設（18施設）のネットワークや各施設の特性を活かした多様な活用の推進など、都立スポーツ施設の戦略的な活用により、スポーツ体験や健康づくりをはじめとする多様な価値を都民の皆様に提供していくこととしています。
- 東京辰巳アイスアリーナは、こうした視点も踏まえ、都立初の通年アイスリンク施設として、国際大会を含む競技大会や競技力向上の場として活用するとともに、都民が気軽に利用できる施設として、氷上スポーツの裾野を広げ、広く親しまれる施設を目指していきます。
- この「施設運営計画」は、競技団体や民間事業者、都民の皆様等の意見を幅広く聴きながら検討を進めたものであり、アイスリンク施設として運営する際の指針となるものです。



- ◆ 平成29年4月 「新規恒久施設の施設運営計画」公表
  - ・東京辰巳国際水泳場については、オリンピックアクアティクスセンターとは異なる機能を有するスポーツ施設としての活用を検討
- ◆ 平成30年11月 東京都スポーツ振興審議会(第26期第11回)  
「東京辰巳国際水泳場の後利用に関する検討について」公表
  - ・有力な3案(プール、アイスリンク、アリーナ)の需要予測及びコスト等を比較
- ◆ 平成31年3月 東京都スポーツ振興審議会(第27期第1回)  
「東京辰巳国際水泳場の後利用に関する方向性(案)について」公表
  - ・都内に施設数が少なく、利用ニーズが高いアイスリンク施設として整備する方向性を提示
- ◆ 平成31年3月 東京辰巳国際水泳場の後利用について、通年のアイスリンク施設として整備することを公表
- ◆ 令和3年9月 「施設運営計画(中間まとめ)」公表
- ◆ 令和3年9月～10月 パブリックコメント実施
- ◆ 令和3年11月 東京都スポーツ振興審議会(第28期第1回)  
「施設運営計画(中間まとめ)」報告

令和3年9月に「施設運営計画（中間まとめ）」を公表し、パブリックコメントを実施しました。  
寄せられた御意見等を踏まえ、「東京辰巳アイスアリーナ（仮称）施設運営計画」を策定しました。

## 【パブリックコメントの実施概要】

募集期間：令和3年9月21日（火曜日）から令和3年10月20日（水曜日）まで

御意見数：96通（213件）

※ 集計方法：1通の中にある、御意見と考えられる部分を件数とカウント

## 【主な御意見と対応の方向性】

・アイスホッケーやカーリングでも利用できるよう、設備や用具等を備えた施設にしてほしい。

⇒ 複数の競技でアスリートも一般市民も利用可能な施設を整備します。

・平日の夜間や土日にも、個人が利用できるようにしたり、教室を開催してほしい。

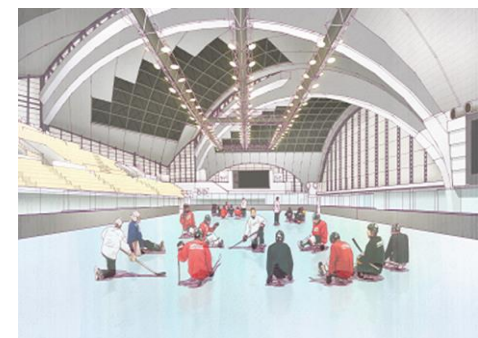
⇒ 平日夜間等にも個人利用や教室の機会を設定します。

・誰もが氷上スポーツを楽しむことができる場とすべき

⇒ 子供でも障害のある人でも利用できる環境を整備します。

・車いすトイレなど障害者が使いやすいように整備すべき

⇒ バリアフリートイレやスロープを増やします。



## 1 施設概要



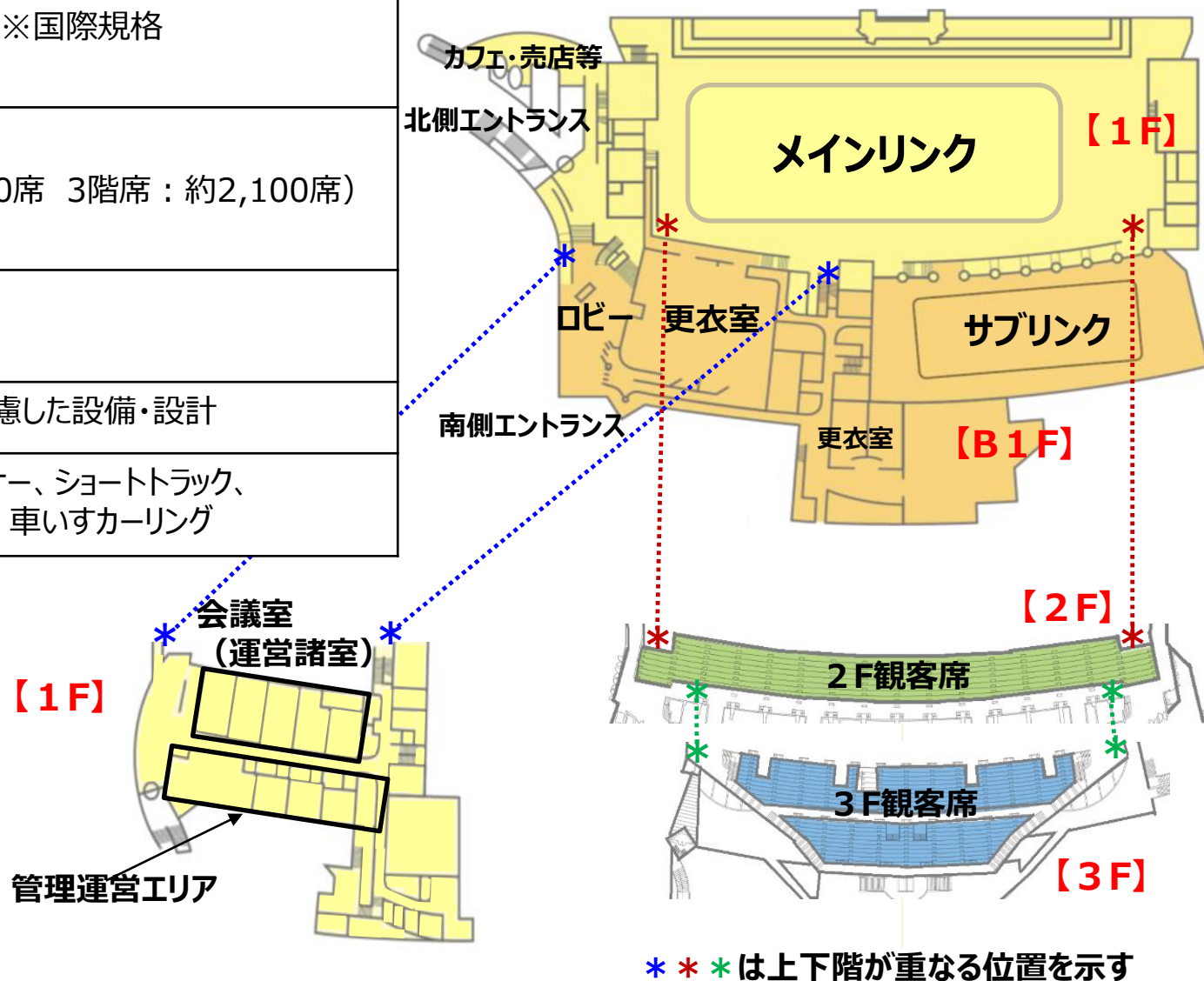
<b>所在地</b>	江東区辰巳二丁目8番10号
<b>竣工</b>	平成5年（令和4年現在 築29年）
<b>階数</b>	地下2階 地上3階
<b>構造</b>	鉄筋コンクリート造 （一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 鉄骨立体トラス造（屋根構造）

<b>面積</b>	敷地22,772㎡（延床22,319㎡）
<b>交通アクセス</b>	「辰巳駅」下車徒歩10分 「新木場駅」下車徒歩12分 都営バス「辰巳駅前」下車徒歩10分



## 2 施設設備

競技面	メインリンク (60m×30m) ※国際規格 サブリンク (47m×17m)
観客席	固定席：約3,500席 (2階席：約1,400席 3階席：約2,100席) 仮設席：約1,500席
関係諸室	・会議室 (運営諸室) ・カフェ・売店等
その他	・環境及び省エネルギーに配慮した設備・設計
利用想定競技	フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック、 カーリング、パラアイスホッケー、車いすカーリング



\*\*\*は上下階が重なる位置を示す

## 1 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用

- フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック、カーリング、パラアイスホッケー、車いすカーリングなどの氷上スポーツの国際大会、国内大会、都大会等の主要大会の場として活用する
- ジュニア育成教室など、都の氷上スポーツの競技力向上の場としても活用する
- アスリートの利用ニーズを踏まえ、早朝・夜間（深夜）も予約営業を行い、氷上スポーツの練習環境を充実させる



## 2 都民が利用しやすい氷上スポーツの場の整備

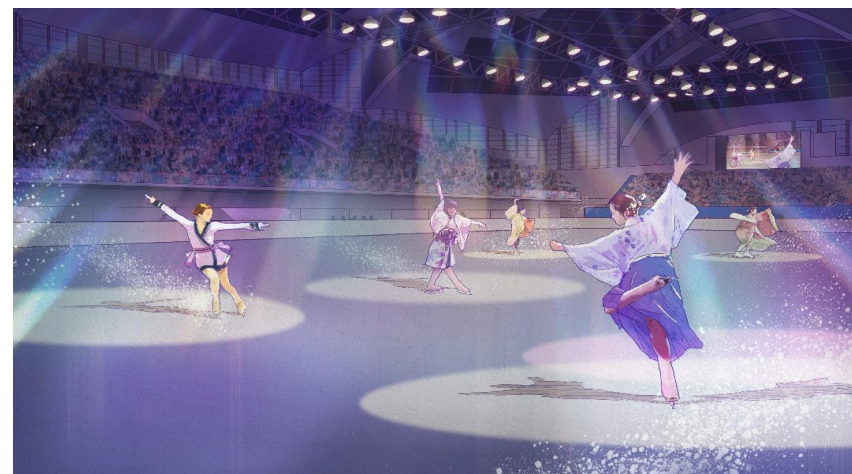
- 都立初の通年リンクとして、都民が日頃から利用できる場とする
- 障害のある人もない人も、誰もが氷上スポーツを楽しむことのできる場とする
- 初心者・親子連れ対象の教室や障害のある人・高齢者も安心して参加できる教室などを開催し、誰もが氷上スポーツに親しめる場とする





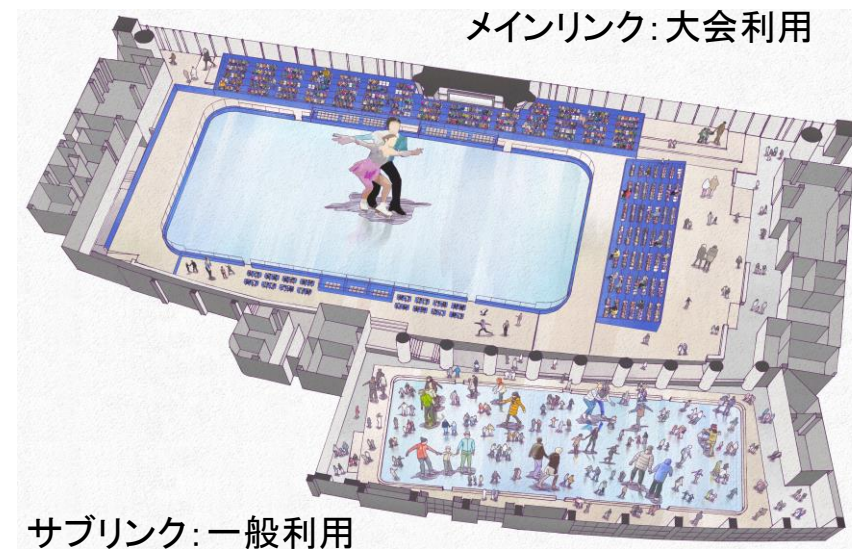
## 3 「観るスポーツ」を促進し、地域の活力創出に貢献

- 様々な競技大会やアイスショー等の会場として、冬季競技の「観るスポーツ」を振興していく
- 都立スポーツ施設や周辺施設と連携したイベント等の開催を支援するなど、臨海エリアの活力を創出し、東京の魅力向上につなげていく



## 4 効率的な施設運営の推進

- 興行（アイスショー）の誘致及び民間の創意工夫を生かし、施設の収益性を強化していく
- メインリンクとサブリンクへの利用者動線を分け、効率的な運営を実現する
- 環境に配慮した省エネルギー性の高い設備により、光熱水費の抑制に努める





# 4 主な施設の構成と利用方法 (1階)

1階

## (1) メインリンク

- 大会利用
- アスリートの専用利用
- 競技力向上事業
- 一般利用 (個人利用)
- スポーツ教室
- 興行の開催

● バリアフリートイレ 新設



(1)メインリンク  
60m×30m

(2)会議室

地下1階 サ布林ク

北側  
エントランス

スロープ新設

スロープ新設

● 1階から地下1階エントランスホールへ続くスロープ



● サ布林クからメインリンクへ続くスロープ  
勾配を緩和



## (2) 会議室

- 大会利用時の運営諸室
- 指導者育成事業等
- 興行開催時の運営諸室

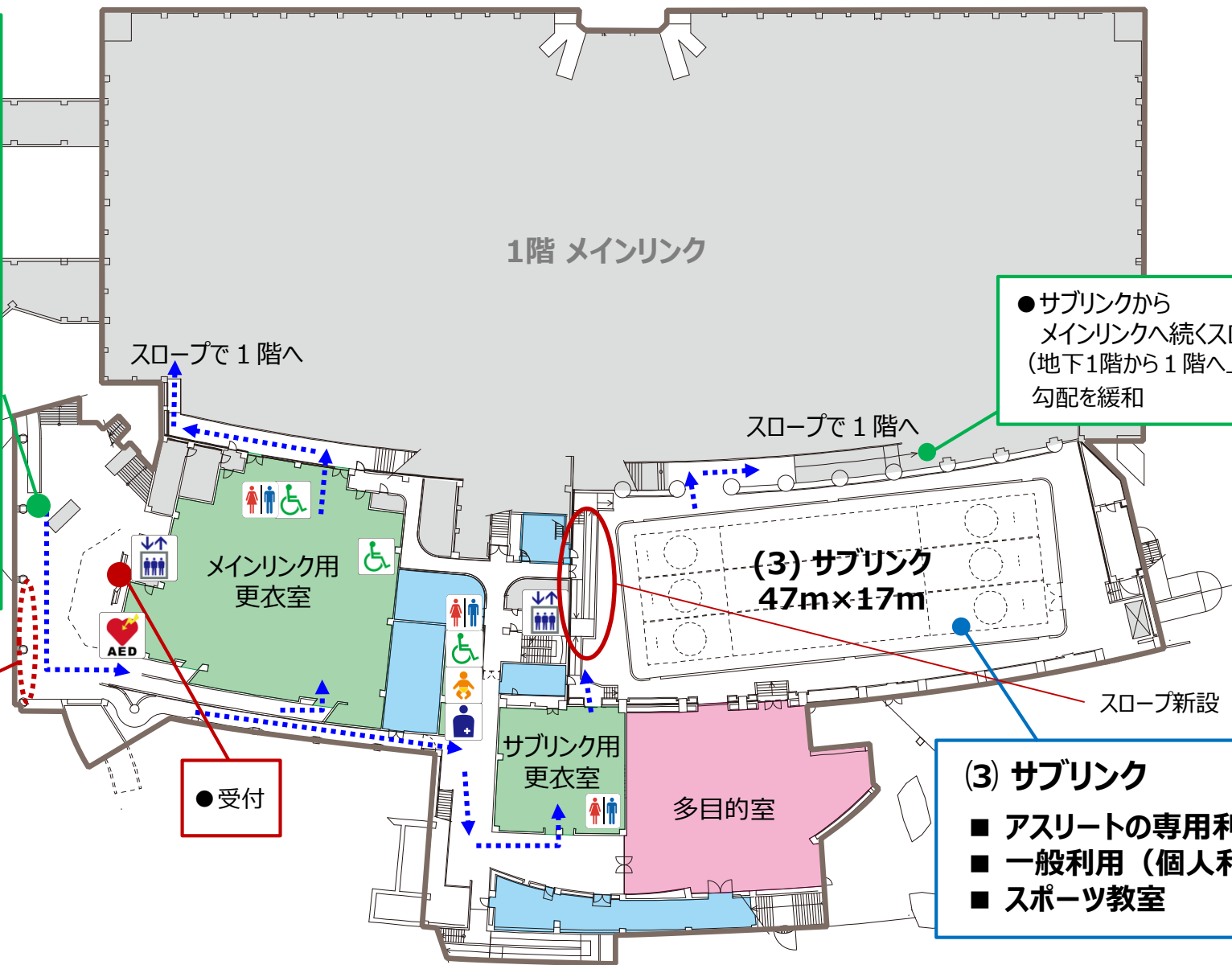
●●● : 車いすの方の動線

— : 新設

# 4 主な施設の構成と利用方法 (地下1階)

## 地下1階

●地下1階エントランスホール  
(北側エントランスからスロープで下がる)



●サブリンクから  
メインリンクへ続くスロープ  
(地下1階から1階へ上る)  
勾配を緩和

●貸靴コーナー(想定)

●受付

(3) サブリンク

- アスリートの専用利用
- 一般利用 (個人利用)
- スポーツ教室

---▶ : 車いすの方の動線  
— : 新設

# 4 主な施設の構成と利用方法 (2階・3階)

2階

メインリンク側

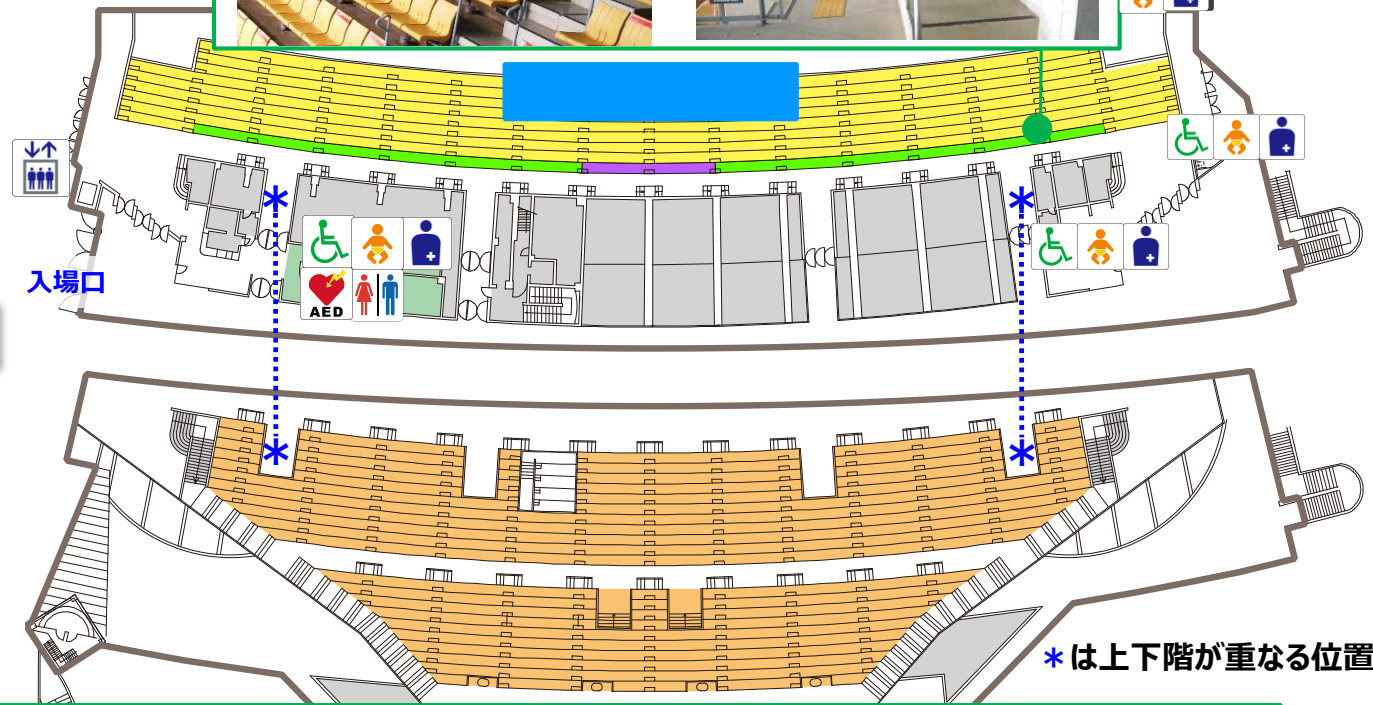
●車いす観客席 (サイトライン確保)      車いすエリアと同伴者席

●授乳室・車いす対応トイレ

●サイン

3階

入場口



\*は上下階が重なる位置を示す

●観客席 - 座席総数 約5,000席 (2階・3階 固定席 約3,500席、1階 仮設席 約1,500席)

- - 2階観客席
- - 3階観客席
- - 車いすエリアと同伴者席 (各36席)
- - 付加アメニティ席※1 (14席)
- - FM補聴受信エリア※2 176席

※1 付加アメニティ席：前方と側方に広いスペースを確保した座席  
 ※2 FM補聴：聴覚障害のある方や難聴者の方の補聴援助システム

メインリンク側



名称	主な利用方法	
----	--------	--

## 地上 1 階

**メインリンク  
(60m×30m)**

- 大会利用
- アスリートの専用利用
- 競技力向上事業
- 一般利用(個人利用)
- スポーツ教室
- 興行の開催

- ・国際・国内競技大会(年間約20大会想定)
- ・競技団体等への貸出、強化合宿
- ・ジュニア育成教室等
- ・各種スポーツ教室等
- ・アイスショー等(年間約5興行想定)



**会議室  
(5室)**

- 大会利用時の運営諸室
- 興行開催時の運営諸室
- 指導者育成事業等

- ・大会運営事務局、選手控室等
- ・運営事務局、出演者控室等
- ・指導者育成講習会等

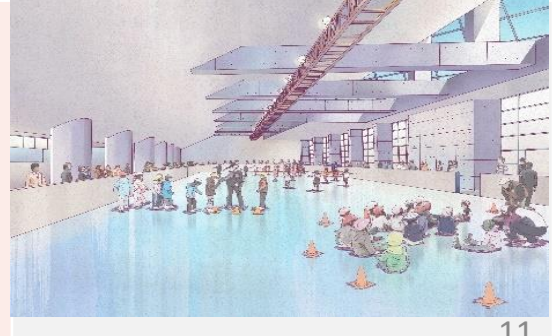


## 地下 1 階

**サブリンク  
(47m×17m)**

- アスリートの専用利用
- 一般利用(個人利用)
- スポーツ教室

- ・競技団体等への貸出、強化合宿
- ・初心者・親子向けの教室、障害のある人・高齢者も安心して参加できる教室等(入門教室、体験会等)





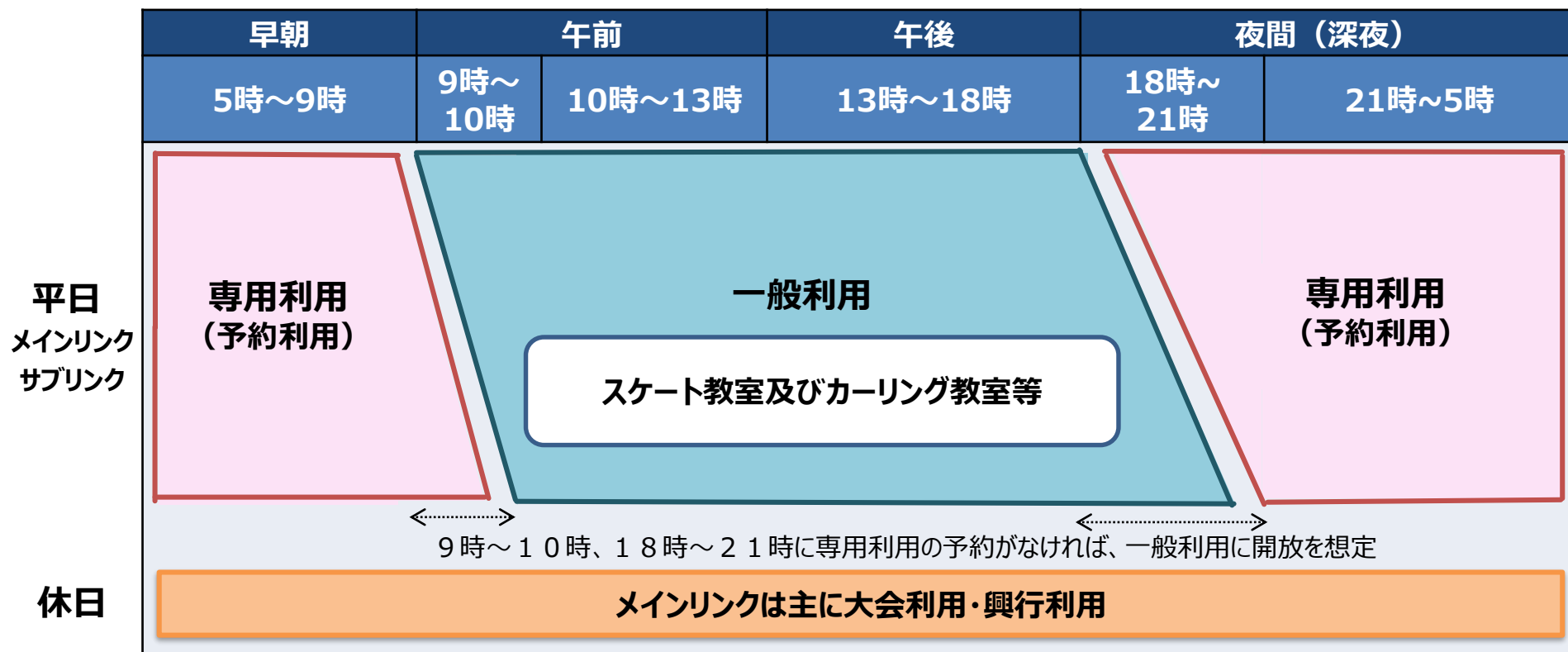
◎ 通年リンクとして、メインリンク・サブリンクの利用者動線を分け、年間を通じて施設の有効活用を図る

- 国際・国内競技大会の利用 (年間約20大会を想定、大会規模によって全館貸切を想定)
- アイスショーなどの興行利用 (年間約5興行を想定、全館貸切を想定)
- 大会・興行利用時以外は、年間を通じて一般利用・専用利用

**\*赤太枠はオンシーズン**

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大会利用	[Orange Bar]						[Orange Bar with Red Border] <b>国際・国内競技大会</b>					
興行利用	[Green Bar]	[Green Bar with Red Border] <b>興行利用</b>				[Green Bar]						
上記以外	[Blue Bar] <b>一般利用 / 専用利用</b>											

- 都立の体育施設であるため、大会利用等を優先し、それ以外の時間は専用利用、一般利用として運用
- 早朝・夜間（深夜）の時間帯は、専用利用（予約営業）として運用するが、一般利用の機会も設定
- 日中（午前・午後）の時間帯は、主に一般利用（教室等含む）として運用



## ○ 利用者の需要予測

競技団体の大会利用、専用利用、都民の一般利用などにより、**年間約28万人の延べ利用者数を想定**

利用目的	内容	来場者目標数（延べ人数）
大会利用 （観戦者等）	年間 約20大会（約100日を想定） ・国際大会、国内大会及び都大会	約 8.0 万人
専用利用 （競技力向上等）	競技団体等による専用利用	約 5.8 万人
一般利用 （個人利用）	日頃から都民が氷上スポーツに親しめる場を提供	約 8.6 万人
自主事業	スケート教室、カーリング教室等の開催	約 1.4 万人
アイスショー等の興行利用	年間 約5興行の実施	約 4.5 万人
合計		<b>約 28.3 万人</b>

## ○ 管理運営について

利用料金制の指定管理者制度による管理運営を行っていきます。

## ○ 想定される年間運営費について

年間運営費（概算費用 - 概算収入）の試算： 約1.54億円

概算費用（単位:百万円）	
項目	金額
人件費	114.3
光熱水費	142.0
委託費	145.3
その他	79.8
合計 (消費税込)	481.4

概算収入（単位:百万円）	
項目	金額
施設利用料	300.3
その他収入	26.8
合計 (消費税込)	327.1

※今後の指定管理者選定の中で提案を募り、さらに効率的な施設運営策を検討するとともに、開業時からのネーミングライツ導入についても検討していきます。

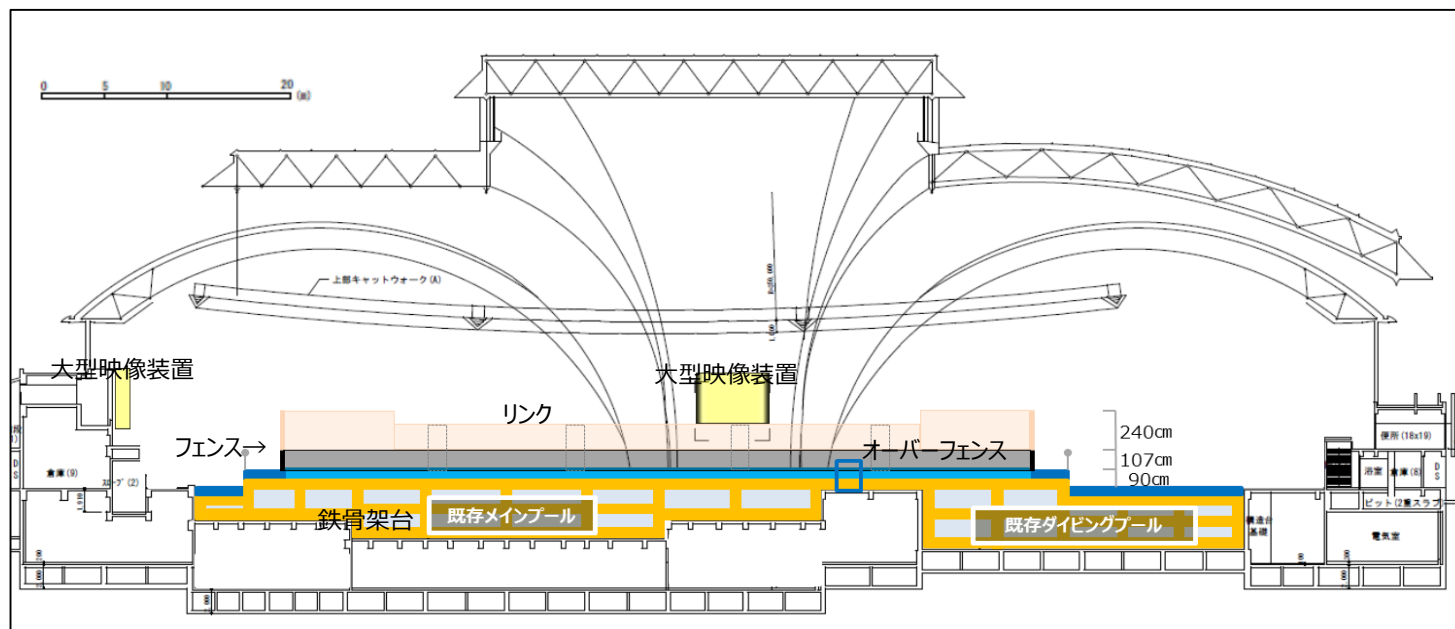


# 9 施設整備

## 1 改修のコンセプト

現施設（東京辰巳国際水泳場）の構造・設備をできる限り活用して、アイスリンク施設を整備します。

改修工事のイメージ（断面図）



## 2 整備費（改修費）

**約59.3億円（見込み）**

- ・老朽化対応 約22.4億円（屋根補修、天井改修、受変電設備の更新 など）
- ・転用工事 約34.7億円（製氷設備の新設、アイスリンク改修（鉄骨架台、リンクフェンスの設置） など）
- ・関連備品等 約2.2億円（整氷車、貸スケート靴、ロッカー など）

**その他大型映像装置等の導入 約 9.1億円（見込み）**

## 9 施設整備

## 3 特徴

## ◆ バリアフリートイレやスロープを設置します。

アクセシビリティ対応として、メインリンク付近にバリアフリートイレを新設します。

また、メインリンク付近などにスロープを設置します。

## ◆ 環境及び省エネに配慮した製氷設備を導入します。

環境への影響に配慮し、自然冷媒のアンモニアを使用したノンフロン製の冷凍設備を導入します。

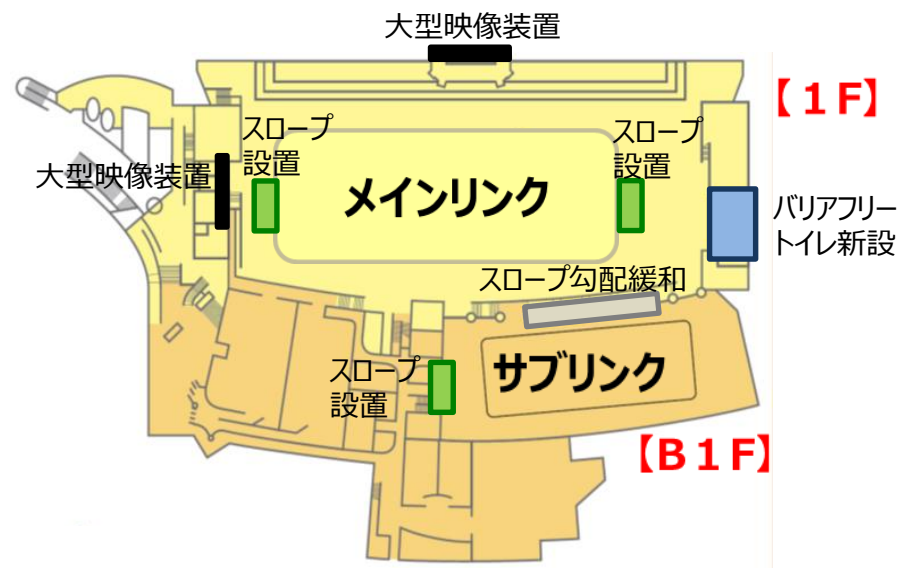
また、リンク床下の冷却管には、冷媒に液化二酸化炭素を使用します。

不凍液を使用した従来のシステムに比べて省エネな製氷設備となっています。

## ◆ 電力消費の少ない大型映像装置を導入します。

競技用システムを含めて導入します。

※今後、空調・給排水設備等の老朽化が想定されるため、将来的に長期休館を伴う大規模改修工事が必要となる見込みです。



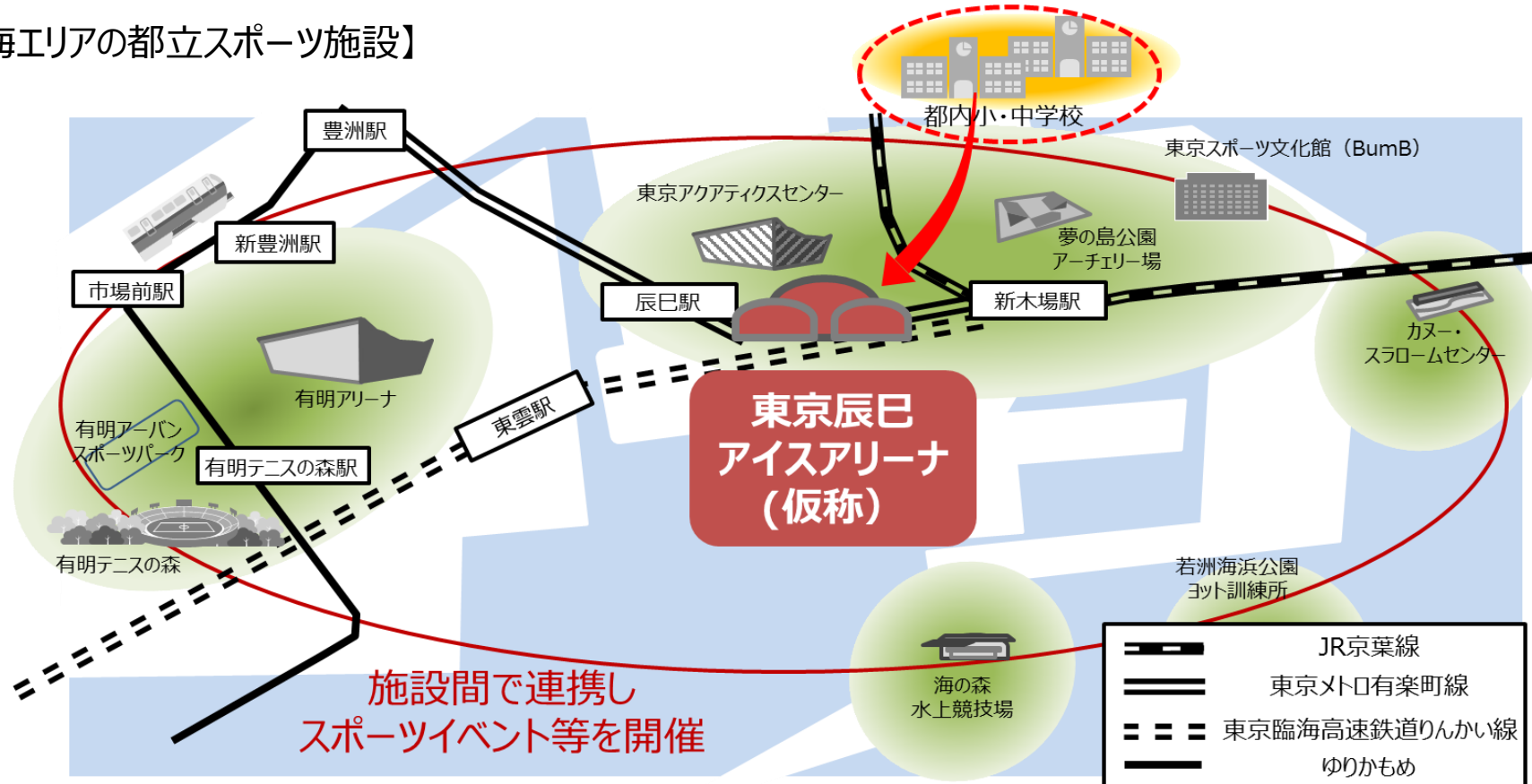
## ○都民の多様なスポーツ活動の拠点として、地域との連携や、周辺施設等と連携した大規模イベント等の開催を推進

- ① 都立スポーツ施設18施設のネットワークを活用した大規模スポーツイベント等の開催  
(特に臨海エリアの都立スポーツ施設等と連携した氷上スポーツ大会・イベント等の開催を支援)
- ② 都内小・中学校の校外活動のため、平日等にリンクを開放し氷上スポーツの体験の場を提供

## ○氷上スポーツの情報・魅力の発信

氷上スポーツを身近に親しめるよう、競技の紹介や都内の大会スケジュールの案内、競技映像の放映、オリンピック・パラリンピアン等のアスリート企画展示等、氷上スポーツの情報、魅力を幅広く発信する

### 【臨海エリアの都立スポーツ施設】



令和4年11月	施設運営計画の公表
令和5年3月末	東京辰巳国際水泳場閉館
令和5年4月	改修工事開始 (東京アクアティクスセンター再開業)
令和6年度	指定管理者募集及び決定
令和7年夏頃	改修工事終了
令和7年秋頃	開業

※上記は、令和4年11月時点での予定であり、変更となる可能性があります。